

「女性経営者等と知事との意見交換会」を開催!

公益財団法人かがわ産業支援財団では、今回で12回目となる企業経営者と知事との意見交換会を、12月2日、高松市内のホテルで開催しました。

今回は、少子・高齢化時代を迎え、労働人口が減っていく中で、経済の活力を維持していくためには、今後より一層女性の活躍が必要とされることから、県内で活躍している女性経営者にお集まりいただきました。

意見交換会には、女性経営者等17名に加え、県からは浜田知事、伊勢野商工労働部長、財団からは中山理事長、さらにオブザーバーとして県内中小企業の経営者ら10名が参加し、活発な意見交換が行われました。



Contents

2015年12月 vol.58 発行(年4回発行)

かがわ産業情報 21 12



トップニュース

「女性経営者等と知事との意見交換会」を開催! ……	1
平成27年度 戦略的基盤技術高度化支援事業(サポイン)に 2事業が採択 ……	5
12月1日、香川県プロフェッショナル人材 戦略拠点を開設しました!! ……	6
特集	
「イタリア・スイズビジネスミッション」を派遣!! ……	7
かがわ農商工連携・6次産業化ビジネス交流フェアを 開催しました ……	8
かがわ創業塾&かがわ創業後セミナー!! ……	8
かがわ冷凍食品研究フォーラム開催 ……	9

かがわ機能性食品等開発研究会 第3回シンポジウム開催します。 ……	9
財団からのお知らせ	
新商品ストーリー by かがわ農商工連携ファンド事業 vol.8 ……	10
「第6回日本ものづくり大賞」で「希少糖含有シロップの生産法と事業展開」が 優秀賞を受賞しました! ……	11
香川大学ビジネススクール「地域の中小企業と経済活性化」 ～企業経営の第一線で活躍する講師による公開講座を開催中!!～ ……	11
香川県知的財産活性化事業 「かがわ知財経営塾」、「営業秘密・知財戦略セミナー」を開催 ……	12
ジャパン・フェスティバルにラオス産うちわを展覧しました! ……	12
かがわ発!元気創出企業	
その時その時、時代を読み説く経営で新しいプロジェクトも進行中! 株式会社 大矢根利器製作所 ……	13

(株)アンファーム

安藤 祐子 取締役



アボカドはとても栄養価が高く、現在、当社でハウス栽培しているが、栽培は瀬戸内の風土に適しているということで注目されている。アボカドの消費量のほぼ99%以上が輸入で賄われている。また、耕作放棄地をよく目にする一方、県外からの移住者も入ってきている。そこで、耕作放棄地を利用し、露地栽培で県内の農業従事者や県外から移住された方にアボカドの取組みを推進していきたい。

▶知事

今、善通寺でキウイの栽培について、同様な形で実現している。ただ、土地の問題が1つ難しい問題だと思う。いろいろと条件整備が必要と思うが、アボカドがそういう形で生産できれば素晴らしいと思う。ただ、露地栽培が可能かどうか、農業生産流通課に栽培状況についてお話をいただきたい。

一和堂工芸(株)

浅野 道子 代表取締役



漆器業界では、後継者不足、漆器で必要な材料、職人の高齢化等により、いつの間にか漆器というものがなくなってしまいうそですごく不安に思っている。香川漆器の持続的な発展のためにも何らかの支援をお願いしたい。

また、展示会に県としてブースを出し、アピールして欲しい。

▶知事

後継者の問題、財源の問題など、伝統的工芸品産業に共通の課題だと思う。非常に厳しい状況だが、輪島塗等に比べて、勝るとも劣らないということをもっとアピールしていく必要がある。漆器協同組合の方で具体的に検討されると思うが、県としては組合の取組みを出来る限り支援していきたいと考えている。

展示会には県として出展しており、出展する場合の支援も行っている。

(有)大山牧場

大山 育江 代表取締役



現在、加工品や外食産業に対して、原料の原産国表示の義務付けがされていない。国産か、海外産であるかの情報が開示されていないため、価格のみが優劣を決め競争自体が公正でない。消費者が国産農産品を選びやすい環境を作るため、原産国表示の義務付けを行うことを香川県から声を出し、農業者の後押しをしていただきたい。

▶知事

先月18日に農水省、消費者庁に直接要望に行き、国産の農林

水産物の品質の高さ、安全性をPRするため、加工品、外食産業まで含めた幅広くあらゆる場面で、原料原産国表示を義務付けるとともに、食品の安全性に十分配慮するほか、国産農林水産物の消費拡大に繋がるよう強く働きかけた。また、先月末に示されたTPPの大綱では原料原産地表示について、実行可能性を確保しつつ、拡大に向けた検討を行うとされたところであり、具体化に向けた国の動きを注視しながら必要に応じて国に働きかけていきたい。

かがわ物産館栗林庵

杉本 里香 店長



2016年3月より瀬戸内国際芸術祭が開催されるが、県外、海外からたくさん来訪していただける絶好の機会である。2013年の会期中は、栗林公園、栗林庵では波及効果をあまり感じる事がなかった。魅力ある県産品を知っていただく機会なので、栗林公園と併せて栗林庵にご案内していただく仕組みを作っていただきたい。

▶知事

過去2回の芸術祭は、栗林公園等名所旧跡には、芸術祭の効果があまり及んでいない。来年の2016では、栗林公園に東京藝術大学が作成する作品の展示、パフォーマンスと食事によるおもてなしを予定しており、芸術祭の正式な会場にしたいと考えている。公式ガイドブックでの紹介はもちろん、いろいろな広報媒体を活用して、情報発信していきたい。

かなたまキッチン

金江 ちひろ 店長



さぬき市の特産の桑の葉を使ったスイーツなどの開発に取り組んでいる。県も桑の葉を広めていただきたい。

昨年から「東讃地域農ガールズ」というプロジェクトを立ち上げて、農業女子でお互いに情報交換、販売等を進めている。女性ならではの悩みもあり、その実情を知っていただき、農業女子が輝けるような施策をお願いしたい。

▶知事

農業分野では女性の方々の主体的な取組みが増加していることから、県としても、女性農業者の育成支援に取り組んでいるところであり、農業経営に積極的に参画する女性農業事業者に対する支援策の拡充について検討を進めていきたい。

(株)サンクラッド

馬場 加奈子 代表取締役



起業家、管理職など女性リーダーを増やす際の障害として、保育・介護・家事、家族の支援が得られないことがある。ワー

クライフバランスを保つために、公的支援の充実と制度を広く知らせること、母親、女性が利用しやすくすることを重視していただきたい。女性ならではの視点を活用することにより、人手不足と隙間産業の創出に大きなメリットとなる。地域創生がコミュニティ経済の発展につながるよう県の政策を進めてもらいたい。

▶知事

ワークライフバランスの重要性をより一層周知したい。待機児童対策については、市町の計画を踏まえて、必要な支援、保育士の人材確保など待機児童対策を進めていきたい。また、介護についても、市町を支援することにより、在宅サービスの充実、居住系サービスの整備を進めていきたいと考えている。起業という意味では、コミュニティ経済の発展に繋がる政策に引き続き取り組んでいきたい。

(株)CEK

永井 智恵子 代表取締役



弊社は、訪問看護・訪問リハ・訪問介護業務支援システム、ケアラクルスの企画・販売をしている。地域包括ケアシステムを整備するためには、医療と介護の情報連携が必要である。私たちは医療情報も知りたいところであるが、セキュリティ問題等もあり簡単ではないと思う。医療と介護の情報連携について、県の今後の取組みについてお教えいただきたい。

▶知事

地域の実情に応じた地域包括ケアシステムの構築のために、平成29年度末までに新しい地域支援事業の仕組みの移行も完了出来るよう、研修会、市町職員との意見交換など、きめ細かな支援を行いたいと考えている。医療と介護の情報連携については、今後も情報通信技術の活用について、医療や介護の現場の実情などを踏まえ取り組んでいきたい。

(株)高畑精麦

高畑 実代子 讃岐はだか麦本舗店主



はだか麦は、香川県では歴史がとてつもなく、良質で全国で2番目の生産量を誇る。昨年、はだか麦を専門に扱うブランド「讃岐はだか麦本舗」を立ち上げた。はだか麦の消費拡大のためには、更なる認知度の向上に官民が連携して、地域全体で取り組んでいく必要がある。ご協力をお願いしたい。

▶知事

県では、はだか麦の作付拡大のための生産支援、せとうち旬彩館での麦茶販売、優れた6次産業化のプランに対する経費助成等、これからも企業の皆様と連携を図りながら、商品開発を支援していくとともに、認知度向上や需要拡大を推進していきたい。

多度津さくら工房

池内 靖子 代表



多度津町の特産品を製品化、販売しているが、観光地が少なく販売が難しい。道の駅、喫茶店、高速SAにも販売させていただき、販路拡大を一生懸命活動している。この間、食の博覧会や前回の瀬戸芸に出展したが、思うようにいかなかった。今度、瀬戸芸の時には、商品を瀬戸芸の中で生かしたいのでお願いしたい。

▶知事

6次産業化と一言で言っても難しい。マーケティングが、重要であり、そこをどうやって突破していくのかというところがある。まずは道の駅、栗林庵等での取扱いを安定的にできないかなどを検討いただけたらどうか。芸術祭の参加については、町と連携し、どのようにできるかをご相談いただきたい。

(株)とおる化成

藏本 典子 代表取締役



製造業では技術の継承ということが非常に大きな課題である。そのために若い人材を育てていきたいという思いがあるが、雇用しても続かない。若い方は何か問題にぶつかるとうすぐ挫折する。自分から考えて行動するのではなく、指示を待つ。優れた人材に育つような子供の教育の取組みを是非お願いしたい。

▶知事

県としてはキャリア教育を推進するに当たって、経済界とも連携しており、あいさつやマナーの重要性、打たれ強さや自分で課題を解決する能力の必要性などの企業関係者からの意見を、職業指導や就職指導に反映させるなど、高校でのキャリア教育の充実に活用している。また、インターンシップや職場見学会を実施するなどしているが、今後も、社会に通用する人材の育成に努めたい。

特定非営利活動法人 DREAM ISLAND

立花 律子 理事長



去年から景観維持の一助となりたくて、田を借りてお米を作り始めた。町も棚田協議会を作り、棚田の存続に取り組んでいるが、高齢化や後継者の問題はもちろん、イノシシ被害もあり、いつまでこの景観が保たれるのか不安に思っている。消えつつある景観とか産業とかを守るための取組みを進めていただきたい。

▶知事

鳥獣害については、平成26年度に緩衝帯を設置するなど取り組んできたが、さらに対策を強化していきたい。

棚田の維持については、農業従事者の減少や高齢化などにより困難な状況となっているが、棚田オーナー制度など、都市住民活

用により町や関係団体と連携するなど検討していきたい。

(株)禾

中條 淳子 代表取締役



東北大震災の際避難所において、食物アレルギーを持つ子供達が、自分は何が食べられないかをうまく説明できずに、アレルギーを含むものを食べて、発症するという事故が報告されている。災害時など混乱時にアレルギー対応の災害備蓄品を的確に配布するのは難しいと思うので、弱者に主眼をおいた備蓄食料の選定の検討をお願いしたい。また、香川県産の農産物中心の備蓄もご検討いただきたい。

▶知事

東日本大震災の教訓を踏まえてアレルギー患者の割合を考慮して、アレルギー対応の食品の備蓄を開始しているが、どこまで徹底しているかが重要なのでもう一度確認したいと思う。また、県産品の備蓄についても検討していきたい。

フリークラウド

小前 光子 共同代表



通訳案内士の資格を持っており、インバウンドのお客さまをターゲットとして展開したいと考えているが、四国では仕事に結びついていない。通訳案内士と情報交換や交流できる場が欲しい。

香川の魅力は瀬戸内海とそこに住む人々の文化だと思っている。そういった魅力の継続的な情報発信をお願いしたい。

▶知事

情報発信は、観光という意味でいろいろな観点で行っている。外国人観光客の増加を図るため、第2のゴールデンルートとして、全国で7ルート認定されたが、本県では2つのルートの対象地域となり、力を入れていきたい。また、通訳案内士の方々の名簿については、県で閲覧できるので、他の通訳案内士の方々の連絡先をご紹介しますことはできる。

(株)森國酒造

池田 亜紀 代表取締役



前回の芸術祭以降、観光客でまだ大変賑わっており、県・小豆島町等関係者の方々に非常に感謝している。

新しい取り組みとして中山の棚田で酒米を作付けた。将来、小豆島ブランドの酒米ができたというのが大きな夢である。小さな酒蔵なので技術者がいない。発酵食品研究所にご協力いただきたい。

▶知事

小豆島の酒米を、しかも棚田で作ることができれば、一石二鳥、一石三鳥であると思う。行政としても出来るだけ支援できればと思う。発酵食品研究所は、製造免許を持っていないので、試験醸造はできないが、今後とも可能な範囲で技術開発の支援をしていきたい。

(有)リンク・サポート

筒井 恵 代表取締役



昨年、日経BPより「会社の正しい終わらせ方」を出版した。「失敗の痛み」を経営者個人やその家族に押し付けて結着を付けるという現在の前時代的なやり方からいち早く脱して、社会全体が「リスクある挑戦の意義」を十分に汲み取り、その失敗の痛みを「広く薄く分散し吸収するシステム」を備えていなければならないと考える。

▶知事

本を読ませていただいたが、廃業や事業承継というのは、極めて重要な課題だと思う。事業引継ぎに係る相談や紹介等を行う「香川県事業引継ぎ支援センター」などを活用しながら、各商工団体や金融機関と一緒に取り組んでいきたい。

